

鹿児島県柔道会だより

■発行人・北 哲郎 ■編集・総務部編集委員会 ■発行・公益財団法人鹿児島県柔道会(電話 099-222-7770)

「武道必修化に思う」

会 長 北 哲郎



近年、命の尊さを顧みない、悲惨な事件、事故の報道が後を絶ちません。

道義の退廃、治安の悪化の中、「中学校武道必修化」は、柔道の指導により、日本の伝統、礼法、作法等、相手を敬う、武道精神に触れ、柔道の「教育的」「精神的」「体育的」価値観の啓蒙啓発活動により、柔道の素晴らしさを理解させる絶好の機会と期待していた矢先、武道必修化、特に柔道の授業で重大事故が発生する危険性の報道が連日のようにされ、柔道修行の目的、教育的、素晴らしい価値については全く報道されず、柔道を特技としない保健体育教員は基より保護者、柔道を選択する生徒に畏怖感を与え、柔道指導者として残念な思いをしたのも事実です。

中学校必修化の柔道の内容は、私は柔道の基本中の基本を内容としたもので、限られた時間の中では、柔道着の着方、礼法、歩き方、組み方、受け身の要領、身体体捌き等、基本的なものが全てだと思います。

柔道の基本を学ぶことにより、相互尊重し、練習を通じ、体力向上、礼儀作法、社会的態度を学び、身につけ約束練習を通して、柔道は楽しいものだということを体験することでしょう。

国民の社会的態度や道徳心の欠如が問題視されている現在、時代が求めている価値ある教育活動であると思います。

私ども柔道経験者は、日常生活の中で柔道修行の最も大切な「受け身」を修得し、自分の物として体得することで命拾いした経験もあります。柔道が自分の物として実社会で役立つ物でなくてはならないと思います。私ども柔道指導者は、常に「安全で効果的な指導法」の研鑽に努めるべきであります。

「相田みつお」の文に、次のような文言があります。

「負ける練習」

柔道の基本の技は受け身

受け身とは 投げ飛ばされる練習

人の前で 叩きつけられる練習

人の前で ころぶ練習

人の前で 負ける練習です

そして、負け方・受け身の本当に身に付いた人間が、人の世の悲しみや苦しみに耐えて、他人の胸の痛みを心の底から理解できるやさしく、温かい人間になれると書いてあります。

指導者として、このような厳しい状況をふまえ、基本に忠実に段階的に授業を推進し、柔道の魅力、素晴らしさを理解させて、「事故0」を命題として指導し、低迷している柔道人口拡大のため、人間形成に役立つ崇高な使命を任務とする魅力ある指導者を期待しております。

終わりに、世間では「大阪維新」が日本中で叫ばれましたが、「明治維新」は薩摩から西郷隆盛、大久保利通等の多くの人材が出て近代日本を築く原動力になった事はよく知られています。これらの人々は、幼少の頃

「郷中教育」で育った人々です。

今年「柔道維新元年」で、「教育柔道」・「武の国薩摩復活」を目指した競技力の向上を最重点として柔道普及発展のため全力で邁進する決意です。皆様方のご指導、ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

○ 定期総会報告

平成24年度の県柔道会定期総会が、公益財団法人になってから初めて開始されました。会長挨拶の後、平成23年度事業報告・決算報告及び平成24年度事業計画・予算並びに役員の一部補充について協議され、全て承認されました。

☆ 柔道功労者等表彰

・ 地域振興指導者 5名

- 1 山川 賢朗 (肝属地区)
永年に亘り肝属地区柔道協会の役員として多大の貢献をした。
- 2 内村 純博 (肝属地区)
永年に亘り光武館の指導に係わり、青少年の健全育成に尽力した。
- 3 平嶺 繁 (薩摩川内・さつま地区)
永年に亘り里柔道スポーツ少年団の指導に係わり、青少年の健全育成に尽力した。
- 4 塩田 保憲 (薩摩川内・さつま地区)
永年に亘り里柔道スポーツ少年団の指導に係わり、青少年の健全育成に尽力した。
- 5 阿部 光明 (大島地区)
永年に亘り瀬戸内柔道スポーツ少年団の指導に係わり、青少年の健全育成に尽力した。
- 6 久志 哲美 (大島地区)
永年に亘り瀬戸内柔道スポーツ少年団の指導に係わり、青少年の健全育成に尽力した。

☆ 23年度六段昇段者 (10名)

- ・ 上原 廣行 (県警)
- ・ 久保田 昌二 (県警)
- ・ 榎谷 浩喜 (始良・伊佐地区)
- ・ 宮原 良二 (始良・伊佐地区)
- ・ 山口 俊郎 (始良・伊佐地区)
- ・ 福添 盛弘 (日置地区)
- ・ 福山 研朗 (大島地区)
- ・ 安山 幸蔵 (大島地区)
- ・ 長瀬 雄三 (熊本地区)
- ・ 堤 憲男 (薩摩川内・さつま地区)

「柔道指導者講習会」報告

県総合体育センターとの共催で平成24年度の柔道指導者講習会が、5月10日(木)と11日(金)の2日間に亘って県総合体育センター武道館で開催されました。今年度からの中学校武道必修化に伴う保健体育の教師をはじめスポーツ少年団の指導者、中・高等学校における柔道部の指導者、警察署・刑務所の柔道関係者、一般の柔道愛好家ら230人を超える参加がありました。

来年度から導入される全日本柔道連盟公認指導者資格制度について説明がありました。これにより、柔道指導者の全てが公認指導者資格を取得する必要があります。

1日目は、午前中に講義Ⅰとして、スポーツドクターの具志堅 隆氏の「柔道の安全指導」の演題で、指導者は、柔道の特性を理解することにより、危険を予期し、回避することによって、怪我や事故防止に万全を期すことが求められているというような指導がありました。

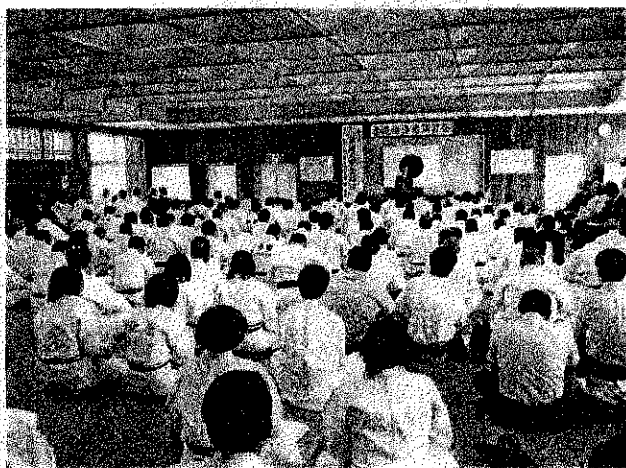
午後からは、講義Ⅱ「審判法」について、北薮季康七段(県警察本部警務課)が国際柔道連盟試合審判規定についての解説や模擬試合を通じた審判の練習がありました。

最後に、「全日本柔道少年団」の報告が柏木茂穂常務理事からありました。

2日目は、午前中の前半に、実技Ⅰ「柔道の基本指導」(全柔連講習会受講者) 豎山浩治六段(舞鶴中)、西園和昭六段(吹上高)がありました。

午前中の後半に、実技Ⅱ-1「投の形」児玉拓也五段(帖佐中)、山野修四段(伊敷中)があり、同じ時間帯に県警本部武道場に場所を変えて、実技Ⅱ-2(初心者向き指導法) 堅山浩治六段(舞鶴中)、肘岡博史五段(重富中)がありました。

午後からは、演習「固の形」向井一輝六段(警察学校)、中藺雅博六段(警察学校)と実技Ⅱ-2を実施し、講習会の全ての日程を終了しました。



(道場めぐり 14)

「内柔道館の歩みと現状」

館長 内 清治

中学、高校、大学と私が柔道を通して、礼儀や相手を重んじる心、柔道をすることに対する親への感謝、仲間の大切さ、勝負に対する楽しさや厳しさを肌で感じ、子供たちに教えることをしたいと思い、1984年(昭和61年)に内柔道館として創設いたしました。

手探り状態で始動し、指導等で悩むことも多くありました。その度に先輩の先生や後輩、保護者、他のスポーツ少年団、柔道以外のスポーツをされていた方々に相談し、貴重なお話や体験談を聞き、取り入れながら練習を行っていました。その成果もあって生徒数も増え、伊集院地区以外からも多くの生徒

が練習に参加してきました。

練習日は月、火、木、金曜日と週4日で、練習時間は18:00~19:30までです。短い時間ではありますが、生徒たちが切磋琢磨し稽古に汗を流しています。バレーボールや水泳、サッカー、習字、日本舞踊等を習っている生徒もおり、全員が揃うことはなかなかありません。なかなか練習に参加できない生徒に、他の生徒たちが声を掛けたり、上級生が下級生の面倒をよく見えています。

以前は20名程度の生徒が在籍しておりましたが、今現在では10名程度で練習しております。少人数ではありますが、「負けたくない!」「絶対に勝ってやる」といった闘争心が生徒たちにでています。卒業した生徒が教えに来た時などは、生徒たち自ら練習をお願いしにいらしています。大会では、緊張のせいか練習の成果が出ずに負けてしまう生徒や入賞する生徒、あと一步で入賞する生徒など、様々ですが生徒たちは楽しんで試合をしています。試合後には、勝ち負けは関係なく「よく頑張った」と褒めます。その後に「勝負の世界だから、勝つことはいい事だが、負ける事で勝つ事よりもたくさんの事を学ぶ」と言っています。中学、高校、大学と活躍している生徒もでき、社会人になっても柔道で教えられた事、胸に刻んで生活している生徒もたくさんいます。私としても卒業生が練習に参加して後輩に教えている姿や活躍の知らせを聞くと嬉しく誇らしく思います。

近年、少子化に加え、IT産業の発展、不幸な事件が多発しているため、身体を動かさず、運動機能の低下が大きな問題となっています。今後、地域の関係者と密に連絡を取り合い、他のスポーツ少年団との交流を持ち、保護者の協力のもと、子供たちの育成に貢献できるよう精進していきたいと思ひます。

最後に、ご指導ご協力を頂きました柔道の先生方や地域の皆様、保護者、生徒たちに心よりお礼申し上げます。

(道場めぐり 15)

「双葉柔道スポーツ少年団」の歩みと現状

代表指導者 鎌田 哲二

双葉柔道スポーツ少年団は、昭和51年4月に故田下 實七段、柳田光宏六段、蓮子信二六段が地域の柔道好きの小学生を集めて旧中種子高校武道館で始められました。

今年で37年目を迎えました。その間、多くの先生方の熱心な指導により卒団者196名の中から優秀な選手や指導者もたくさん輩出しました。

現在は、平成10年に種子島中央武道館が完成し立派な道場で高校生や中学生と一緒に練習しています。

双葉柔道スポーツ少年団は、柔道を通して、指導者・育成会・団員が親睦を図り、礼儀正しく感謝の気持ちを持つことを基本とし少年団運営に取り組んでいます。少年団柔道の全国大会出場という高い目標を掲げ、時には厳しく、楽しい練習に取り組んでいます。未だに目標達成はなされておりません。しかし、県スポーツ少年団競技別交歓大会優勝2回、県下少年柔道大会優勝1回を初め県大会準優勝5回、3位は数多くあり、常に団体上位入賞しています。個人においても優勝者を初め多くの上位入賞者を出しております。

結成10年記念大会以降は、5年毎に記念大会及び祝賀会を行っています。歴代育成会長、卒団者、育成会、指導者が集い交流を深めています。

練習は、月・水・金の週3回で、午後5時30分から7時30分まで6名の指導者が熱心に教えています。

双葉柔道スポーツ少年団は、

- ① 健全な体と心を養い、次代を担う立派な人になろう。
- ② ルールを守り、人にめいおかけず、進んで奉仕する人になろう。
- ③ スポーツの中で、友情と協力と喜びを学び、礼儀正しい人になろう。

をねらいとして、柔道だけが強い子供でなく、

思いやりがあって、誰からも好かれる子供を目指し、団員みんな仲良く今年度は、27名の団員で4月から活動しています。

柔道の練習以外にも、学期末の学年別の試合を行い、優勝者には伝統ある持ち回りのトロフィーが与えられます。

また、家族参加の磯遊びもあり海岸でスイカ割りやバーベキューに花火と団員がとても楽しみにしている一つです。

3月は、卒団員を送るお別れ柔道大会があります。学年別の個人戦で優勝した人は、大きなトロフィーが与えられます。

また、お父さんやお母さんとの試合もあり、親子のふれあいが図られています。

色々な大会後には、育成会の反省会があり、全団員が一人ずつ人前で発表します。最初は、恥ずかしくて発表できない団員も、回を重ねる毎にうまく言えるようになり、お父さんやお母さん方も喜んでいきます。

勝った時は、褒めてやり、負けた時は、この次は勝つよう頑張ろうと励まし、「あいさつのできる子供」「柔道をやっているよかったですと思えるよう」これを目標にして指導しています。

年々、団員の減少が見られますが、指導者と育成会が力を合わせ、双葉柔道スポーツ少年団の発展を目指し、より一層の努力をしていきたいと思っております。

今後とも、県柔道会をはじめ、関係各位の皆様のお指導をよろしくお願い致します。



各種大会の成績(2月~5月)

・**県下中学校柔道新人大会**

2月11日(土) 鹿児島アリーナ武道場

【男子団体戦】

- 1位 中種子中学校
- 2位 隼人中学校
- 3位 志布志中学校
- 3位 鹿屋東中学校

【男子個人戦】

- 1位 江夏 司(川内中央中学校)
- 2位 松岡 剣心(末吉中学校)
- 3位 徳田 大地(隼人中学校)
- 3位 内村 光暉(鹿屋東中学校)

【女子個人戦】

女子(44kg級)

- 1位 阿久根深菜美(万世中学校)
- 2位 堤 寛菜(東谷山中学校)
- 3位 久保田ひなの(谷山中学校)
- 3位 森 瑞穂(伊敷中学校)

女子(48kg級)

- 1位 瀧川 琳花(伊敷中学校)
- 2位 熊井 智慧(谷山中学校)
- 3位 山北 英菜(吉野中学校)
- 3位 原口 阿実(吹上中学校)

女子(52kg級)

- 1位 前野 彩(川辺中学校)
- 2位 狩集ひとみ(加世田中学校)
- 3位 長谷川 楓(帖佐中学校)
- 3位 土屋 七海(伊集院中学校)

女子(57kg級)

- 1位 幸田 奈々(末吉中学校)
- 2位 山下 優光(舞鶴中学校)
- 3位 中川 葵(伊敷中学校)
- 3位 神余 海歩(吹上中学校)

女子(63kg級)

- 1位 宮崎 繭(鹿屋東中学校)
- 2位 川窪 志歩(舞鶴中学校)
- 3位 登尾かすみ(野田中学校)
- 3位 西山 美依(伊集院中学校)

女子(70kg級)

- 1位 青柳 麗美(舞鶴中学校)
- 2位 末吉 千湖(宮之城中学校)

3位 村永 奈央(種子島中学校)

3位 平藪 唯(野田中学校)

女子(70kg超級)

1位 小玉 りえ(末吉中学校)

2位 古市 真愛(種子島中学校)

3位 坂本 茉佑(吉野中学校)

3位 多持 真代(牧之原中学校)

・**県下少年新人柔道大会**

2月26日(日) 鹿児島アリーナ武道場

【団体戦】

- 1位 かわなべ柔道スポーツ少年団
- 2位 柔心館道場
- 3位 枕崎柔道スポーツ少年団
- 3位 米倉柔道館

☆**第22回九州女子柔道選手権大会**

3月11日(日) 福岡武道館

稲森 奈見(鹿児島南高校) 見事優勝

☆**第34回全国高等学校選手権大会**

3月19日(月) 日本武道館

竹下 恭平(明桜館高校)が個人戦90kg級で第3位入賞

☆**ロシア国際ジュニア大会**

4月21日(土)

豎山 将(鹿屋体育大学)が66kg級で見事優勝

・**県高等学校柔道競技大会**

5月30日(水)・31日(木)

鹿児島アリーナ・メインアリーナ

【男子団体戦】

- 1位 明桜館高等学校(初優勝)
- 2位 鹿児島情報高等学校
- 3位 鹿児島商業高等学校
- 4位 鹿児島工業高等学校

【男子個人戦】

男子(60kg級)

1位 加藤 駿(明桜館高等学校)

2位 塩田 忠央(鹿児島実業高等学校)

男子(66kg級)

- 1位 小野 将知 (鹿児島情報高等学校)
- 2位 黒葛野大輝 (鹿児島情報高等学校)

男子(73kg級)

- 1位 近藤 航冨 (鹿児島情報高等学校)
- 2位 福満 仁 (れいめい高等学校)

男子(81kg級)

- 1位 半渡 勝也 (鹿児島商業高等学校)
- 2位 宮ヶ原拓也 (明桜館高等学校)

男子(90kg級)

- 1位 竹下 恭平 (明桜館高等学校)
- 2位 田中 健児 (鹿児島情報高等学校)

男子(100kg級)

- 1位 下村 柔悟 (鹿児島情報高等学校)
- 2位 徳田 翼 (明桜館高等学校)

男子(100kg超級)

- 1位 飛松 直樹 (鹿児島情報高等学校)
- 2位 上野 公大 (鹿児島情報高等学校)

【女子団体戦】

- 1位 鹿児島南校等学校 (14連覇)
- 2位 鹿児島情報高等学校
- 3位 国分中央高等学校
- 4位 出水中央高等学校

【女子個人戦】

女子(48kg級)

- 1位 井田 瑞穂 (鹿児島南高等学校)
- 2位 道場 有希 (れいめい高等学校)

女子(52kg級)

- 1位 前田 千島 (国分中央高等学校)
- 2位 永田あいり (鹿児島玉龍高等学校)

女子(57kg級)

- 1位 岡村 舞子 (鹿児島水産高等学校)
- 2位 永田ひかり (鹿児島南高等学校)

女子(63kg級)

- 1位 青柳 美希 (鹿児島情報高等学校)
- 2位 原添 佳奈 (鹿児島情報高等学校)

女子(70kg級)

- 1位 榎谷 有里 (鹿児島南高等学校)
- 2位 松尾 巴 (国分中央高等学校)

女子(78kg超級)

- 1位 高山 莉加 (鹿児島南高等学校)
- 2位 花田 夕稀 (鹿児島南校等学校)

女子(78kg級)

- 1位 鬼塚葉瑠奈 (鹿児島情報高等学校)
- 2位 山下 里奈 (国分中央高等学校)



主な行事予定(6月~9月)

- 6月10日 県下中学校柔道大会
- 6月17日 県下小学生学年別柔道大会
- 6月24日 南九州形講習会
- 7月8日 国体選手選考会(少年・成年)
- 7月24日 県下中学総体柔道蹴~25日
- 7月30日 本部夏期講習会~8/4
- 8月26日 全国小学生学年別柔道大会
- 9月16日 第66回県民体育大会

【編集後記】

ロンドンオリンピックが間近に迫ってきました。日本選手団の活躍が楽しみです。特に、お家芸である柔道競技が何個のメダルを獲得するか、同じ道を志す者として期待と応援を送りたいと思います。また、子供たちに柔道の素晴らしさをアピールする絶好の機会と捉え、普及活動に努めましょう。発刊が遅れたことををお詫びします。(文責：西川)